

# 令和元年度 第1回宮城県産業教育審議会会議録

宮城県教育委員会

- 1 日 時 令和元年7月8日(月)  
午後2時から午後4時30分まで
- 2 会 場 宮城県石巻工業高等学校 視聴覚室  
石巻市貞山五丁目1番1号
- 3 次 第
  - 1 開会
  - 2 開会の挨拶  
宮城県教育委員会教育長  
宮城県石巻工業高等学校長
  - 3 視察
  - 4 議 事
    - (1) 「職業教育の充実」について
      - イ 石巻工業高校の取組状況について
      - ロ その他の工業系高校の取組状況について
      - ハ 進路状況について
        - (イ) 平成31年3月高等学校卒業者の就職内定状況
        - (ロ) 専門学科の進路状況
    - (2) 連 絡
      - イ 事務局から
  - 5 閉 会

## 【資料一覧】

- 資料1-1 産業教育振興法(抜粋)
- 資料1-2 産業教育審議会条例
- 資料1-3 情報公開条例(抜粋)
- 資料2 委員名簿
- 資料3 県立高校工業系学科の取組状況・課題について
- 資料4-1 平成31年3月高等学校卒業者の就職内定状況(5月末現在について)
- 資料4-2 専門学科の進路状況

## [別冊資料]

- 平成28年度宮城県産業教育審議会提言  
「今後の専門学科・専門高校の目指すべき方向性」

## 令和元年度 第1回宮城県産業教育審議会

進行  
事務局 伊藤裕之

委員の皆様、本日は御多用のところ、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。開会に先立ちまして、本審議会は情報公開条例19条に基づき、公開となりますので、よろしくお願いたします。

ここで本日の資料並びに日程の説明をさせていただきます。本日の次第が表紙となった冊子、出席者名簿と座席表（両面）となっております。

また、別紙資料としてみやぎ産業教育フェアのチラシ、石巻工業高校からの資料として、プレゼン資料「石巻工業高校の取組」、「学校要覧」、「学校案内」、以上でございます。

本日の日程は、配付しております次第のとおりに進めて参りたいと思います。終了時刻は16時20分頃を予定しておりますのでよろしくお願いたします。

### 1 開会

進行  
事務局 伊藤裕之

それでは、只今から、令和元年度 第1回宮城県産業教育審議会を開催いたします。

始めに、開会の挨拶を申し上げます。

### 2 開会の挨拶

松本文弘 教育次長

教育次長の松本でございます。伊東教育長があいにく出席が叶いませんでしたので、代わって御挨拶を申し上げたいと思います。

本日は、御多用のところ、宮城県産業教育審議会に御出席いただきありがとうございます。また、委員の皆様には、日頃から、本県の産業教育の充実・発展のために御支援・御協力を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

本県高等学校における産業教育については、各学校の特色を生かし、地域や産業界と連携しながら、将来のスペシャリストとしての基礎・基本を習得して、地域の産業を支える人材を育成しているところであります。

また、産業教育フェアについては、昨年も、多くの県民の方々にご来場いただき、専門高校の学習成果を広く発信することができました。

さて、本審議会からは、平成28年度末に「今後の専門学科・専門高校の目指すべき方向性」についての提言をいただいております。昨年度は、東日本大震災の津波被害から再建を果たしました県農業高校と水産高校の新しい施設・設備の活用状況を、現地で直接御確認していただきました。

今年度は、震災からの復興・発展に向けた今後の専門学科・専門高校の在り方について、専門的見地から御意見を頂戴したいと考えておまして、本日は、その1回目として石巻工業高校の施設・設備と取組を御覧いただくとともに、県内の工業系高校の取組についても御報告させていただきたいと考えております。

一方、本県の職業教育をとりまく環境は、震災以外の要件でも変化をしておまして、3つほど具体例を挙げますが、「好景気による現象ではありませんが、地域の工場等では『深刻な人手不足』が生じていること」、「本県の高卒・就職者の『3年間職場定着率』が必ずしも高くないこと」、「少子化の一層の進行により、地方の高校の学級数は今後も減少させざるを得ないため、小規模高校に設置されている『複数の職業系学科の統合』が今後も続くこと」、などが挙げられます。

こうした幅広い観点からもご意見を賜ればと思っております。

今後の本県の産業教育の充実に役立ててまいりたいと考えておりますので、活発なご助言、アドバイスをお願いいたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしくをお願いいたします。

進行  
事務局 伊藤裕之

続いて、本日会場となります宮城県石巻工業高等学校 今野好彦 校長より御挨拶をいただきます。

挨拶  
今野好彦 校長

皆様こんにちは。ようこそ本校へお出でいただきました。ありがとうございます。私はこの4月から本校に赴任いたしました。前任は宮城県第二工業高等学校でございます。

本校が創立しましたのは昭和38年4月でございます。同窓生は1万5千名を超えております。当時の背景としましては、高度経済成長期の真っ只中にありまして、この石巻にも水産業、製紙業が盛んでしたので、どうしても工業の技術者が欲しいという要望が地域からございました。あわせて、生徒数の急増にも対応せねばならない、という時代背景がありまして、石巻市、石巻市のPTA連合会、市の商工会議所、市内の各町内会連合会とで、官民一体となって県の方に要望を差し上げたところでもございました。それが、夢叶いまして昭和38年4月に産声をあげたところでもございます。地域の産業を支える人材の育成が専門高校に課せられるわけですが、本校は地域の熱望によって作られた専門高校でございます。現時点においても高い期待が寄せられているところでもございます。当初は機械科、電気科、工業化学科各2クラス、土木科1クラスの、4学科7クラスでスタートしました。それから幾多の変遷を経まして、平成15年3月に実習棟が竣工しまして、平成16年12月には校舎棟が完成したところでもございます。従いまして、施設は15、6年経っているということになります。

時代の変遷に伴い、15年には建築科が新設されました。また生徒数の増減がございまして、学科名も変わりました。今の学科名が、機械科、電気情報科、土木システム科、化学技術科、建築科ということでございます。今年度から1学級減がスタートしまして、これまで2学級あった機械科が1学級になりました。すべての学科が1学級となりました。現在全校生徒は653名のうち女子生徒は71名でございます。県工業高校、古川工業高校、仙台工業高校、白石工業高校が県内では核となる工業高校ですが、それらの高校には女子生徒がもっと在籍しており、本校が一番少ないという状況であります。分析してみますと、石巻地区には桜坂高校という女子校があるので、本校に入学する女子生徒の割合が少ないのではないかと話していたところです。

本校も、震災では1階が1m弱浸水しました。その後、復旧をしたところですが、機械科の先生方は、水をかぶった旋盤をばらして、自分たちで組み立てて、実習にこぎ着けたというのが当時の状況でございます。

それでは、皆様方に本校の施設や授業、及び取組状況等を御覧いただき、委員の皆様から御意見や御感想、そしてアイデア等を賜りまして学校運営に生かしていきたいと思っております。何卒、よろしくをお願いいたします。

進行  
事務局 伊藤裕之

続きまして、本日御出席の皆様につきまして、お手元の名簿順に御紹介させていただきます。

宮城県中小企業団体中央会専務理事 大内 仁 委員でございます。  
宮城県漁協女性部連絡協議会副会長 三浦 弘子 委員でございます。  
東北大学大学院教授 本審議会の会長 伊藤 房雄 委員でございます。  
宮城学院女子大学教授 宮原 育子 委員でございます。  
東北大学准教授 梅津 理恵 委員でございます。  
宮城県経済商工観光部次長 佐藤 靖彦 委員 代理 産業人材対策課  
阿部 貴夫 課長でございます。

宮城県高等学校長協会より 宮城県松山高等学校長 徳能 順子 委員  
でございます。

宮城県専修学校各種学校連合会副会長 滝上 島雄 委員でございます。  
なお、今野 薫 委員、梨本 雄太郎 委員、塩村 公子 委員、竹中  
智夫委員につきましては欠席となっておりますので、よろしくお願ひいたし  
ます。

続きまして、宮城県石巻工業高校の職員を御紹介します。  
今野 好彦 校長でございます。  
遠藤 俊樹 教頭でございます。

なお、佐々木寛征主幹教諭につきましては、別の校務により、後ほど出席  
いたします。

続きまして、教育委員会の主な職員をご紹介します。

先ほど御挨拶いたしました、

宮城県教育庁 教育次長 松本 文弘 でございます。

宮城県教育庁 高校教育課 課長 伊藤 俊 でございます。

それではこのあと、施設見学に移ります。ここからの御案内につきましては  
は、石巻工業高校の遠藤教頭をお願いします。

説明  
遠藤俊樹 教頭

それではよろしくお願ひします。手元の資料の中に、本校の学校要覧があ  
ると思います。10ページの方に、校舎、実習等の配置図がありまして、一  
番上が4階、下にいくに従って3階、2階、1階というようになっておりま  
す。先程、学校長より5学科と説明させていただきましたが、実習棟4階が  
化学技術科実習室があることとなります。

3階は一部共有の教室もございますが、主に電気情報科、2階が機械科、  
土木システム科、建築科、そして1階も同様となっております。

今回は、全学科御案内させていただきたいと考えています。一学科10分  
位を目処に、約一時間ということで、見学をいただければと思います。幸い  
に、土木システム科以外は生徒が、午後の授業で実習をしておりますので、  
生徒の実習中の様子を御案内して、どのように実習しているかなど、御覧い  
ただければと思います。

では、早速でございますけれども、この部屋は施錠したいと思ひますの  
で、お荷物とか邪魔になるものはこの部屋に置いたままで構いませんので、  
こちらの前の方の出入口の方からお進みください。

### 3 視察

#### ※施設見学

プラント実習室、機器分析室、自動制御実習室、電気計測実習室、建築科製図室、総合測量準備室、建築構造実習室、機械加工実習室などを視察（約1時間10分間）。

### 4 議事

事務局 伊藤裕之

それでは、これより審議に入りますが、資料1-2の産業教育審議会規則第5条により、会長が議長を務めることになっておりますので、伊藤会長に議長をお願いいたします。

伊藤房雄 会長

それでは、暫時議長を務めます。皆さんの御協力をお願いします。最初に本日の進め方について、事務局から説明をお願いします。

事務局 吉田浩二

事務局の吉田です。よろしくをお願いいたします。昨年度の審議会では、別冊資料 平成28年度末に出された審議会提言「今後の専門学科・専門高校の目指すべき方向性」より、その後半部分である「震災被害の大きい農業高校・水産系高校について」の部分を取り上げ、7月には県農業高校、10月には県水産高校の視察を行い、両校の取組状況・課題等の報告の後、審議会委員の皆様から御意見を頂戴しました。

今年度は、提言の前半部分『みやぎの志教育の推進』『職業教育の充実』『震災後の地域復興と地域産業の発展を支える人材の育成』の提言を受けての各校の取組を検証する予定です。

本日の進め方としましては、まず始めに、本日視察いたしました、石巻工業高校の遠藤教頭より、提言を受けての取組状況等を御説明いただき、次に、その他の工業系高校の取組状況について、事務局より報告させていただきます。その後、委員の皆様から御質問や御意見を頂戴するという形をとりたいと思います。限られた時間ではありますが、よろしくをお願いいたします。

伊藤房雄 会長

只今事務局から説明のあったとおり進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では最初に、石巻工業高校の取組状況についてです。遠藤教頭をお願いいたします。

遠藤俊樹 教頭

それでは、平成29年3月の宮城県産業教育審議会の提言の3つの柱に基づく、本校での取組について説明させていただきます。

1つ目の柱、『みやぎの志教育』の推進（～専門学科の特長や地域の教育力を生かした連携・協働の取組～）に関する取組について説明させていただきます。

機械科では、貞山小学校5年生を対象としたものづくり体験教室「小学校へ行こう！」を実施しています。これは、3年次の課題研究の一環として実施しています。内容は、鋳造によるオリジナルのキーホルダーを製作ということで、減摩合金とカセットコンロを使用し、200℃くらいの温度で溶ける金属を型に流し込んで、その型どおりのキーホルダーを作るというものです。1回目は本校の生徒が小学校に出向き、どんなことをするのかという説明を行います。その後、小学生に本校に来てもらい、小学生にキーホルダー

製作をしてもらうというものです。

続いて、電気情報科では、地域の人材育成と活性化をテーマとした高校・企業・大学による三者連携事業ということで、ソフトバンクグループの人型ロボット「Pepper」を活用した取組を行っています。課題研究では、タッチパネルで、石巻地域の観光案内をするシステムの開発に携わっています。

続いて土木システム科です。土木システム科では、小中学生を対象とした出前授業を実施しております。これは、電気情報科と同様の高大産連携事業の一つで、希望のあった小中学校に出向いて、「Pepper」を活用した防災教育の出前授業を実施するというものです。昨年度は近隣の小学校2校、中学校2校に出向いて実施しました。

次は化学技術科です。化学技術科では、貞山小学校の6年生を対象としたものづくり体験教室を実施しています。炎色反応や銀鏡反応の化学実験を高校生が指導し、小学生に体験させるというものです。内容としては、鏡を作ろうということで、銀鏡反応というのは、出てきたものが鏡みたいになるので、それを作ろうとする実験です。炎色反応というのは、溶液を燃やすと、その炎の色で物質の性質がわかる、何の物質であるかがわかるというのですが、そういった実験を小学生が行い、高校生が指導するというような体験教室を実施しています。

最後に建築科です。化学技術科と同様に貞山小学校の6年生を対象とした授業体験を実施しています。3年生の課題研究の授業の一環として取り組んでおり、本校の生徒が小学生に木製プランターづくりを教えるというものです。

このような異校種との連携をとおした取組は、専門学科で学んだ学習成果の発揮や、生徒の学習意欲の向上につながっているものと考えます。

「課題」としては、これらの取組は、貞山小学校が本校に隣接していることで、児童・生徒の移動が容易だからこそ可能であるということ。もっとたくさんの中小学生に「工業」の魅力を伝える機会を増やしたいと考えても、移動手段の問題や経費の問題があって難しいことがあげられます。

また、全学科とも夏季休業期間中に2～3日間のインターンシップを実施しています。将来の職業選択の一助となっており、生徒の学習意欲の向上にもつながっていると考えますが、受け入れ企業の都合もあり、電気情報科、建築科、化学技術科では一部の生徒しか体験できないという現状になっています。全生徒を対象にした取組にしていければと考えております。

工業系の各種資格取得の指導も各科で行っておりますが、放課後及び朝の課外などで指導していますが、本校は部活動も盛んであり、部活動との調整や指導時間の確保も課題になっています。

続いて2つ目の柱、職業教育の充実～専門分野の高度化への対応と将来のスペシャリストの育成に向けた取組～について御紹介させていただきます。

機械科では、2年生を対象に、進路別体験学習として、熟練技能者による技術指導を受けています。内容は、溶接、エンジン分解・組立、仕上げ組立、ぎょう鉄、普通旋盤による機械加工、3D-CADの各技能・技術を熟練技能者に指導を受ける機会を設けています。

電気情報科では、電気工事士の2級という資格をなるべく全員に取らせようと、科をあげて指導しているところです。普段は、朝や放課後を中心に科の教員が指導していますが、実技については、実際に企業で行われている指

導を体験するということが必要になってきますので、宮城電気サービスという企業の支援を受けて、実技指導を受ける機会を設けています。

土木システム科では、最新の測量技術について学ぶ、情報化施工技術講習会を実施しています。これは、建設現場における情報通信技術（ICT）を活用した「施工」について、第一線で活躍している情報化施工技術者の方から直接指導を受け、将来の建設業を担うスペシャリストとしての人材育成を図ることを目的として行っているものです。

化学技術科では、社会で活躍している卒業生による社会人講話を実施し、生徒の進路決定に生かすとともに、社会人として人生を送る意識の向上を図る目的で実施しています。

建築科では、課題研究において、専門家による技術指導を受けて、木造倉庫の製作に取り組んでいます。建物を製作するための工程を図面作成から材料の加工、組立、仕上げまでを実践し、生徒の技術と技能の向上を図ったものです。昨年度製作した倉庫は、学校のある行政区に寄贈し、防災倉庫として利用されています。

「課題」としては、1クラス40名を対象とした体験学習では、細やかな点まで指導がいき届かないことや、先ほど紹介した土木システム科の小中学校への「防災教育の出前授業」は、担当者が変わり、今年度は実施することができなくなっており、技術・技能の伝承がうまくいっていないことなどがあげられます。

最後に、3つ目の柱、震災後の地域復興と地域産業の発展を支える人材の育成～地域を重視するとともにグローバルな視野を育成するための取組～に関してですが、建築科の課題研究で平成27年度から29年度まで3年間で取り組んだ、「女川町竹浦北地区高台移転まちづくりの取組」について、紹介させていただきます。

資料は、本校の建築科長をつとめる畠山教諭が県内の建築系の学科の教員の集まりである建築系分科会で発表したものになります。

震災で甚大な被害を受けた女川町の竹浦北地区住民と県の建築士会から平成27年10月に「高台移転まちづくり」への参加打診があったことから、この取組ははじまりました。

住民と建築士会、本校の3者による意見交換会をへて、高台移転後のまちづくり模型の製作と地区の集会所の設計を本校の生徒が行ったというものになります。

「課題」は、このような取組は、非常に貴重な経験であったが、継続的な取組にはならないことがあげられます。

「課題研究」では、全学科が水曜日の4～6校時に実施していますが、それぞれの学科で自分たちの科の中のテーマを設定して取り組んでいるのですが、できれば、学科横断的な取組についても検討していきたいと考えています。

また、グローバルな視野をもった人材の育成という観点から、海外に進出している企業等の交流なども今後の課題としてとらえています。

以上で、本校の産業教育審議会の提言に基づいた取組についての説明を終了いたします。

伊藤房雄 会長

ありがとうございました。続いてその他の工業系高校の取組状況について事務局からお願いします。

事務局 長田晃明

それでは、5ページ、資料3について御説明します。本資料は、平成28年度末にいただいた提言のうち、前半の部分、「震災後の地域復興を視野に入れた専門教育の在り方について」の中の3つの提言について、各学校から取組状況を調査しまとめました。

1の『みやぎの志教育の推進』については、石巻工業高校の小中学生へのICTによる防災教育をはじめ、各校においてものづくり体験教室などの子供達に向けたものづくりの楽しさを実感できる取組などを実践しております。

それにより、子供達やその保護者の方々と「関わり」、子供達の笑顔などにより自己有用感を高め、自らの将来に必要なものを「求め」、地域の一員としてどのような役割を「果たして」いくのか、生徒に考えさせるきっかけとしております。

次に、2の『職業教育の充実』でございます。

県内全ての工業系高校では、生徒が地域の熟練技能者や大学教授等に、直接技術・技能の指導を受け、地域産業を支える人材の育成を目指す「みやぎクラフトマン21事業」に取り組んでおります。

その成果として、生徒の技能五輪国際大会への出場や大学との連携が国交省大臣賞を受賞するなど、様々な方面で生徒が活躍しており、このような地域産業などの地域資源を活用した職業教育の充実が特色の一つであります。

最後に、3の『震災後の地域復興と地域産業の発展を支える人材の育成』ですが、各校においては、インターンシップや課題解決型学習などを通して、チームで協働し課題を発見し解決に取り組むことで、主体的・対話的で深い学びによる地域人材の育成に繋がるよう取り組んでおります。

また、グローバルな人材育成として、外国との交流事業に取り組む学校もあります。

伊藤房雄 会長

ありがとうございました。遠藤教頭からは先程見学しました施設を活用した取組等について説明をいただきました。また、事務局からは、その他の工業系高校の取組状況について説明がありました。各委員から御質問、御意見、御感想等があればお願いします。

では、私からですが、本日色々見させていただき、ありがとうございました。生徒たちが、非常に楽しそうに、笑顔を見せながら取り組んでいるのが印象的でした。

その一方で、こちらに通うようになって、自分の進路は違っていたかなと感じるような生徒はいませんか。

今野好彦 校長

ないようですね。

伊藤房雄 会長

転科などはないのでしょうか。

遠藤俊樹 教頭

転科はありません。



7月末に中学生対象にオープンキャンパスも実施しており、学科をそれぞれ紹介する機会を設けていますし、入学してから違う科が良かったというのはありません。

伊藤房雄 会長

部活も結構忙しいのでしょうか。  
全く部活をやってない生徒はいるのでしょうか。

遠藤俊樹 教頭

本校は、全員加入ということになっていますので、ただ部活によっては毎日ではなくて、週に2日とか3日しか活動しないという部活も中にはありますが。

伊藤房雄 会長

インターシップがなかなか増えていかないというお話だったのですが、基本的には全員インターンシップに参加することになっているのでしょうか。

佐々木寛征主幹教諭

私は機械科長なのですが、機械科と土木システム科の方は基本的に全員参加させています。

伊藤房雄 会長

どのくらいの期間ですか。

佐々木寛征主幹教諭

2日もしくは3日間です。一企業あたり、2人から4人くらいです。電気情報科、化学技術科は希望制なのですが、今年は希望者が多く、クラスの半分くらいは希望しているので、来年あたりからどうするかを検討しています。建築科は、全員でやりたいという話も出ているようです。

伊藤房雄 会長

ほとんどが石巻市内での実習になるのでしょうか。

佐々木寛征主幹教諭

ほとんどが石巻市内ですが、一部、市外に出る生徒もいます。

伊藤房雄 会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

三浦弘子 委員

いろいろな専門分野の学科があるようですが、各科ごとのいろんな技術を持ち寄り、例えばあまり大きくなくてもいいので、家などを建てたという事例はあるのでしょうか。

遠藤俊樹 教頭

私が先程、課題というように申しあげましたが、それぞれ自分の学科の中でしか取組はなかったので、学科の枠を超えて、全部で協力して何か一つやろうということができていなかったのもので、そのような活動ができたらいいいのかなと、考えております。

三浦弘子 委員

ありがとうございました。せっかく設計や建築関係など様々学んでいるので、それを全部あわせて文化祭などで発表してみると、工業高校の魅力を発信できるのではないかと思います。

今野好彦 校長

ありがとうございます。

伊藤房雄 会長

貴重な御意見ありがとうございました。

滝上島雄 委員

今の話に関連しておりますが、建築科の方で、竹浦北地区に集会所を設計して作ったとのことでしたが、これに、例えば電気関係の科も参加することはできなかったのですか。

遠藤俊樹 教頭

屋内の電気工事であれば、2級の資格を持っていればできると思いますので、やればできないことはないのかなと思います。ここでは自分たちの範疇で、例えばこの近隣のお年寄りのいるところのちょっとした電気工事をしてみたりとか、ボランティアをしたりとか、それぞれの学科独自にやっていたりとか、なかなかみんなでまとまってやるってところがないのが現状で、そういうことができたなら素敵だなと思います。

今野好彦 校長

石巻市では、この7月から「ささえあいセンター」を建設しようということのようです。それが電気科に良い話が参りまして、工業高校さんとしてこの「ささえあいセンター」について、何かできないかという打診がありました。今、どれぐらいの規模でそれが建設されるのかということについて、具体的に話し合いを持つ段階に来ております。そこで、建築であれば外にベンチとか、土木であれば歩道板の設置、「ささえあいセンター」内の簡易的な電気のスイッチは電気科が、というようなことを学科間で総合力を投じて、何か貢献したいという意見が出ているところでございます。ありがとうございます。

伊藤房雄 会長

他、いかがでしょう。

滝上島雄 委員

先程、実習の様子を見せていただいた時に、女子生徒さんからいろいろなことを聞いたのですが、本当に楽しそうに、生き生きとしておりました。

先程の話で、中学生を対象に、オープンキャンパスなどで体験してもらい、「こういうことを私やりたい」という目的を持って、入学しているのだと思いました。本当にいい意味での専門高校の姿を見せていただきました。ありがとうございました。

今野好彦 校長

ありがとうございます。

伊藤房雄 会長

他にどうでしょうか。

阿部貴夫 課長

貞山小学校さんとの提携事業について、素敵だなと思っておりまして、世代の違うお兄さん、お姉さんにキラキラした目で教えてもらおうと、もの作りの楽しさが小学生に伝わるのだらうなと思います。ぜひ、ちょっと遠いところまで行かれると尚良いかと思います。同じように、世代間という部分で、宮城電気サービスさんとの連携については、卒業生の方がいらっしゃるわけではないのですか。もしいるのであれば、尚良いと思います。子どもたちは大人と会うのが、学校の先生と親だけだったりします。他の世代の違う人との触れあいというのは、社会に出てから役に立つものであり、とても良い取組だと思いました。

今野好彦 校長	ありがとうございます。
伊藤房雄 会長	他にいかがですか。
滝上島雄 委員	先程、旋盤の実習を見せていただきましたが、高校生ものづくりコンテスト全国大会への取り組みはどうなんでしょうか。
遠藤俊樹 教頭	5学科全部で、それぞれ出ております。本校で出場していないのは「電子回路」「自動車整備」であり、それ以外の部門については出ております。
滝上島雄 委員	やはり、県大会優勝、東北大会、全国大会出場というのは、生徒さんにとって大きな夢なのだろうと思いますし、大きな目標にもなると思います。是非、全国大会出場を目指して頑張ってくださいと思います。
宮原育子 委員	今日はありがとうございました。 学科が複数あるわけですけど、入学している生徒さんの人気学科というのは何かありますか。
遠藤俊樹 教頭	今年の4月に入学した生徒たちの入試の倍率をみると、建築と機械が高く、倍率という面だけで言うと、今年の春は建築と機械の人气が高かったということになります。
宮原育子 委員	ありがとうございました。今日見学させていただいて、生徒さんたちを拝見して、とても頼もしく見ました。やはり、産業系の高校というのは、本当に実技が大切になっていて、私から見ると非常に複雑なところを生徒さんに教授するというのは、授業研究も大変されていて、自習とプリント学習など、非常に丁寧に作られているということが分かりました。いろいろなことを学んだ生徒さんが、現実にはいろいろな社会で役に立つような生徒さんが出ているということに、非常に嬉しく思いました。工業系の世界を支えてくださる人材が出ているということ、実際に拝見することができてとても嬉しかったです。 大学に進学する生徒さんがいらっしゃいますし、ここで芽生えたいろいろな興味を、その先へ持っていくという、非常にいいモチベーションや自信を与えているのだと思いました。
今野好彦 校長	ありがとうございます。
伊藤房雄 会長	感想でもいいので、何かあればお願いします。
大内仁 委員	経営者の方に会うと、大体は人手が足りないということで、困っていらっしゃっております。現在の就職の傾向と伺いますか、「こういうところなら就職してみたい」または「就職したくない」とか、そのようなことについてお感じになっていることがあれば教えていただきたいと思います。 企業においても、外国人を採用して養成したり、新聞などにPRしたりと

様々な努力をしています。そういう意味で、学校現場の先生方におかれましては、生徒自体を見ながら、生徒の希望はどこにあるのか、待遇面の問題などあると思いますが、何かヒントになればと思います。

佐々木寛征主幹教諭

お答えになるかどうか分かりませんが、先程インターンシップのお話をさせていただきましたが、企業の方からは地元に残ってほしいとお話をいただいております。嬉しいことなのですが、地域の企業さんからは是非石巻工業の生徒を送ってほしいと、沢山の会社からお話しはいただいているのですが、残念ながら地元企業さんの期待には応えられていないのかなという現状です。就職は本人の希望もありますし、保護者の希望もかなり大きいです。最終的には話し合いの中で決めていただくことになるんですけど、私たちも最初は地元の企業を勧めるのですが、石巻ですと、トヨタ東日本であるとか、中部工業団地などに1時間弱ぐらいで通えるんですね。

機械科の場合だと、トヨタ東日本に2、3人ぐらい、プライムアースEV エナジーだと3人とか4人とか、かなりの数がそっちに流れています。電気情報科なども、電気関係の地元の会社に、なんとか人材を残してくれと要望はいただいているのですが、なかなか地元には残らない、年によっては、電気情報科の地元就職がゼロという年もありました。今年の3月に卒業した生徒も1人でした。生徒には色々と話しはしているのですが残らないというのが現状です。

大内仁 委員

インターンシップの受け入れについて、見直しの声も挙がっている。また、企業自体高齢化しており悪循環になっている。

また、少子化の影響もあり、絶対数も少ないと思いますが、感想を述べさせていただきます。

佐々木寛征主幹教諭

少子化についてですが、この地区の高校1年生は1600人をちょっと切るぐらいです。これからどんどん減っていくわけですが、10年後は1200人ぐらいになり、400人ほど減ります。400人という、40人学級、10クラス分なので2校分くらい減るということになります。

絶対数がどんどん減っていく中で、地元の会社は何とか地元に残して欲しい。やはり、学校だけではなく、地元の企業さんであるとか、商工会議所等で連携を取って、何とか地元へ人材を残す工夫が必要だと思います。

大内仁 委員

やりがいだったり、給与面だけではなく福利厚生を充実させるだとか、休みを十分にとらせるだと、そういう風にやっていかないと難しいと考えています。

伊藤房雄 会長

他にご意見はございますか。

梅津理恵 委員

今後の課題の3つ目として、「海外に進出している企業等の交流など、グローバルな視野をもった人材の育成」があげられていますが、もし具体的なお考えがあれば伺いたいと思います。

今野好彦 校長

これは、今のところ全く浮かんできておりません。ここから先にある飯野川地区に会社を構えている社長さんと懇談したときに、「機械のマニュアルは洋書で書いてある。中卒だろうが、高卒だろうが、大卒だろうが、その洋書を読めて理解していただかないと、うちの社員として機械を動かすことができない。したがって、まずは英語教育をした方がいい」という話をされました。私もそれは同感であると思いました。今、文科省においても英語教育に力点を置いております。令和四年度からの新指導要領も英語教育ということで大々的に謳っておりますので、私が漠然と考えているのは、英語が飛び交うような学校にしたいと考えています。その上に、専門性を身に付けて社会に送り出したい。そのためにはどうカリキュラムを考えていくか、英語の先生とディスカッションしながら、カリキュラムの構築をしているところでございます。梅津委員の具体的な取組というものについては、申し訳ありませんが頭にありません。

徳能順子 委員

今日は本当にどうもありがとうございました。職業教育を学んでいく学校の参考になりました。職業教育というのは、挨拶がきちんとできたり、機械科の生徒さんに最後見せていただいた丁寧な掃除だったり、あのような部分を見せていただくと、まさに技術だけではなく、挨拶、掃除、すべてが職業教育に結びついているということ、改めて感じました。技術も勿論ですが、それ以外のところに先生方が、心を砕いて指導している様子がわかりました。私からは一点ございまして、先ほどのインターンシップの話ですが、全員やっている学科と、希望者の学科があるようですが、それは学校として、最初から縛らずに、学科ごとにお任せした結果なのでしょうか。また、地元の企業に実習に行ったときに、生徒を見初めて、「ぜひうちの会社に」ということがあれば、ぜひその辺を聞かせていただきたいと思います。

佐々木寛征主幹教諭

もともと、学科ごとに始まったという経緯があり、学科ごとに企業とやり取りをしています。ただ、例えば機械科として、ある企業にお願いしたとき、先方からぜひ電気情報科の生徒や、化学技術科の生徒をお願いしたいということもあります。またある企業は5名まで引き受けますということもあり、機械科で2名、電気情報科で2名、化学技術科で1名とした企業もありました。

また、会社で実際の3日間実習し、ぜひこの会社に就職したいと希望し、就職した生徒は何人かいます。ただ、基本的には就職とは切り離し、「職業観の育成」ということで送り出していますので、どの企業にいても同じだと指導しています。

伊藤房雄 会長

よろしいでしょうか。我々のところの学生を見ていると、国のほうには行きたがらない、地方にとどまりたいという傾向があります。管内ではなくとも、県内には多く就職されてますよね。あとは、何かあったときには石巻に戻ってきて働くという関係をいろいろと作っていくことが重要であると思います。学校としては、石巻市内のいろいろな企業と密接な関係を作っていくのがいいのではないかと思います。それと、今後、工業高校に限らず、農業高校や商業高校についてもイメージが変わってくると思います。今、東北大の工学部でも生物や社会科学を扱う研究室ができてます。それは、社会課

題を解決するために何に興味を持ってやれるかということであり、専門性も随分広がってくるのだと思います。我々も工学や理学と協働で何かをやろうと話し合いを始めているのですが、根っこの部分は一緒だと感じております。「石巻の課題を解決する」という発想でいくと、いろいろな取組ができると思いますので、そこを積極的に掘り起こすことが大切であると思えました。

続いて進路状況について、事務局からおねがいます。

事務局 伊藤裕之

事務局の伊藤と申します。

私からは、簡単ではありますが、平成31年3月高等学校卒業者の進路状況についてご説明いたします。3月末時点での内定率は98.8%と平成30年3月末と同様となりました。その後、5月末時点では99.4%となっており、依然、就職内定率が高い状況は続いております。

一番下の⑧宮城労働局発表の県内求人倍率が3.62ということで、求人数が多いことが一番の要因ですが、1回目で受験した生徒の合格率が高く内定決定の時期が早いというのが、特徴であります。真ん中より少し下の【概況】の②進路希望の割合状況を見ますと、進学希望が75.8%と依然進学傾向が強いことが分かります。

9ページから11ページにかけては、産業別・職業別の学科別就職希望者数と就職内定者数になりますので、御覧いただきたいと思えます。

また、先ほどもお話がございましたが、本県では就職後3年以内の離職率が40%を超える状況にあり、職場定着が大きな課題となっています。

このことから、今年度も昨年に引き続き、「地学地就」地域産業の担い手育成推進事業により工業高校を除く就職者の多い学校に15名の連携コーディネーターを30校に配置いたしました。地域企業が求める人材と生徒・保護者の要望とのマッチングを図ると同時に卒業生の就職先を定期訪問し、定着率の向上を図ると共に離職した卒業生を各種人材確保事業につなぎ、早期の再就職を促すこととしておりますが、このほかにも様々な事業を実施して生徒の早期内定に向けて支援して参りますので、引き続きよろしくお願ひします。

進路状況等については、以上になります。

伊藤房雄 会長

只今事務局から報告がありました、専門学科の進路状況について、委員の皆様から質問がありましたらお願いいたします。

依然就職率は高い状況ですが、一方で、離職率も上がってきているようです。離職率については、毎回その後どうなったか、データを出していただければ、皆さんから様々なご意見を頂戴できるかと思えます。

阿部貴夫 課長

中小企業さんは毎年採用するのが難しく、前回採用したのが10年前である企業もあり、高校生を採用した場合、同僚が父親くらいの年代だったりしています。県として今年からやろうとしているのは、各企業を地域でまとめて、地域の同期として交流できないかという動きを、石巻、仙南、大崎、栗原、気仙沼などで考えています。悩みとか辛さ、楽しみなどを共有してつながっていければいいのではないかということで、そういう取組を今年度から行っていこうと考えています。

伊藤房雄 会長

それでは、次に（２）連絡ですが、事務局からお願いいたします。

事務局 吉田浩二

事務局から連絡が３点ございます。１点目は『さんフェア宮城２０１９』の御案内です、今年は１１月１０日（日）１０時から１４時までに行われます。ぜひ審議委員の皆様にも足をお運びいただきたいと思っております。

２点目です。本日の審議において、発言し切れなかったことやお気づきの点がございましたら、お配りしました意見用紙にご記入の上、令和元年７月１９日（金）までに、ファクシミリでお送りいただきますようお願いいたします。

３点目は、次回の審議会の御案内です。今回は県庁舎会議室を会場に１２月頃開催する予定です。内容については、次回も提言の前半部分である『みやぎの志教育の推進』『職業教育の充実』『震災後の地域復興と地域産業の発展を支える人材の育成』の提言を受けての各校の取組を検証する予定です。日時が確定しましたら御案内をしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

以上でございます。

伊藤房雄 会長

只今事務局から連絡がありました件について、質問等があればお願いします。

特にないようですので、本日の審議を終わらせていただきます。御協力いただき、どうもありがとうございました。事務局に進行をお返しします。

## ５ 閉会

事務局 伊藤裕之

議長の伊藤会長、どうもありがとうございました。それでは閉会に移ります。

本日は貴重な御意見をいただきありがとうございました。以上をもちまして、令和元年度第１回宮城県産業教育審議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

事務局から連絡いたします。石巻工業高校出発は１６時２５分になりますので、玄関前に集合願います。駐車場まで御移動ください。